



## 副会長就任の所感について

風間 信隆 (明治大学名誉教授)

8月19日に開催された東アジア経営学会国際連合産業部会の総会において副会長にご推薦・ご承認頂きました。望月会長・貫顧問の下で幹事の皆様とも手を携えて、全力を挙げて産業部会活動の持続的活性化に努めて会員サービスの一層の充実を図っていききたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ご承知のように、東アジア経営学会国際連合(IFEAMA; 以下東連と記す、初代会長 野口祐 慶應義塾大学名誉教授)は、東アジア地域における経営学者の交流を目的として1993年に設立され、同時にアジア経営学会(初代会長 野口祐 慶應義塾大学名誉教授)も設立され東連に加盟しました。

東連の国際大会での交流を深める中で経営学研究者の交流だけでなく、各国の企業経営者・管理者の交流の場としての国際大会を求める声が高まってきたことを受けて、2015年の東連第13回モンゴル大会において、産業部会を設置し日本からスタートすることが決議されました。

東連設立当時は東アジア各国の経済的基盤が脆弱でしたので、資金援助を行う目的でNPO法人東連ジャパンが設立され、国際大会での資金援助を行ってきました。また、産業部会も当初はNPO法人東連ジャパンから資金援助を受けていましたが、その後独自の運営をしています。

21世紀に入ってアジア諸国の経済発展は著しく、東連加盟の各学会の財政的基盤が充実しており国際大会での資金援助を行う必要性が薄れたことやNPO法人東連ジャパンを構成する野口ゼミ卒業生が高齢化したことから、2023年9月16日の総会で

NPO法人東連ジャパンの解散が決議されました。

最近の国際情勢は厳しく、さまざまな地政学的リスクを高めておりますが、今後もますますアジア経済は世界経済の中でそのプレゼンスを高めることは間違いありません。7月に英国のTPP(環太平洋経済連携協定)加盟申請が承認されましたが、欧州に位置する英国がTPPに参加するのも今後のアジアの経済発展を睨んだ国家戦略でもあります。

昨今、世界ではさまざまな分断と対立が目立っておりますが、こういう国際情勢にあつてこそ、日本の研究者や実業人がアジア各国の研究者や実業人と胸襟を開いて語り合い、民間交流を深めていくことはますます重要となっていると考えます。

産業部会は、まさに「アジアの時代」における平和的発展に資するべく経営学研究や持続可能な企業経営の発展に寄与するための交流・研鑽の場としての使命を果たす役割を担っております。産業部会サロンや東連主催の国際大会への参加を通じて、全ての会員の皆様に様々な啓発や刺激の機会を提供できるものと考えております。

産業部会は、多くの実業人の方々が会員になっている点では大変ユニークな存在です。実業界で活躍されておられる会員の皆様の研鑽の場としてご活用して頂きながら、研究者にとっても実業界とのさまざまな交流を通じて実践に学ぶ経営学の発展を目指すことができるものと考えます。

最後に、会員の皆様からご意見・ご要望をお寄せ頂くことが学会活動の活性化を実現する上で不可欠と考えます。今後益々のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。



# 「生成AI」の概要と教育現場での活用

高橋秀幸氏 (株式会社サイバーフェリックス 取締役)



### はじめに

私たちの日常やビジネスシーンにおいて、生成AIの存在感が増してきました。特にテキスト生成において名高い「ChatGPT」や「Bigチャット」を筆頭に、画像や動画、音楽など多岐にわたる分野での進化が目覚ましいです。2023年3月にMicrosoft社からMicrosoft 365 Copilotが発表されたことは特に大きな話題になりましたが、私たちの日常的な業務や生活で生成AIを当たり前にする日もそう遠くはないでしょう。

### (1) 具体的なツールの活用と留意点

具体的な生成AIの活用について以下に簡単に例をあげてみます。

#### ■ ChatGPT や Bing チャットでできること (例)

- 記事の要約や作成
- アイデア出し (企画立案)
- 問い合わせに関する回答
- 小説や台本などの創作活動
- 翻訳
- 関数やマクロの作成
- コードの生成
- メール文の叩き台作成

#### ■ 留意点

- 個人情報や機密情報に関する入力は避ける。
- 生成AIからの回答を授業目的の範囲外で利用する際は、意図しない著作権侵害となる可能性もあるため注意して利用する。
- 生成AIからの回答は常に誤りを含む可能性があることを理解して利用する。

### (2) 教育へのインパクトと国内の動向

カーンアカデミー代表のサルマンカーン氏のTEDトーク(2023年4月公開)で、生成AIが教育へ与える影響について語られています。この中で取り上げられている、AIチャットボットのKhanmigoは、AIが家庭教師となり、1人1人に合ったより個別最適な学びを提供することができます。また、教師の指導サポートや、指導計画のサポートなどの機能も備わっており、教師の業務効率化や業務負荷の軽減も期待できます。

国内では、7月に文部科学省から『初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン』が発表されました。このガイドラインを参考にして、利用方針や活用方法などの検討を始める自治体もでてきています。

### (3) 教育現場での具体的な活用法と総括

学校現場での生成AIの具体的な活用については、まずは個人情報や機密情報等を扱わない公務や、授業等で使い始めて慣れていくのがいいかと思っております。

具体的には、公務であれば、保護者様向けのお便りの叩き台作成や、宿題の叩き台作成など。授業であれば、AIの回答から子どもたちに考えさせたり、人間の回答と比べたりする道徳的な授業です。

今は、一般に公開されている生成AI活用に留まっていますが、将来の教育現場では、「教育へのインパクト」でご紹介した、AIチャットボットのKhanmigoのできるような、教師のサポート機能や、児童生徒への学習支援機能などが、学校現場で導入されている公務システムや、デジタル教材などに組み込まれていき、今皆様が使っているWord、Excel、PowerPointなど同じで特別に何かを意識することなくAIを活用していくことになるでしょう。

# 「生成AI」の企業活動での活用

福井 采音 氏 (株式会社 blank canvas 代表取締役社長)



近年、企業で生成 AI を活用する例がみられるようになってきている。2022年11月に ChatGPT の無料版が公開され、翌年3月には ChatGPT の API の提供が開始された。その結果、多くの企業で生成 AI の利用が容易とな

り、導入のハードルが下がっている。

しかし、実際には生成 AI の導入準備ができていない日本企業は約7%にとどまっており、約51%の米国との大差があると言われている。その理由には生成 AI への理解の不足が考えられる。生成 AI の活用の有無で企業間格差が広がるという調査報告もあり、今後はすべての企業で導入の検討をしていくべきだと考える。

企業が生成 AI を導入するメリットは何だろうか。生成 AI の特徴として、人間と比較してレスポンスが速く、24時間利用できることが挙げられる。その特徴から4つのメリット、①業務の効率化、②利用者に依らないパフォーマンス、③常時サービスの提供、④顧客体験の向上が考えられる。特に①業務の効率化については、顧客に IT サービスの提供を行っていない企業でも大きなメリットとなる部分であり、すべての企業で生成 AI が利用されるべき理由でもある。

生成 AI の利用にはリスクも伴う。誤った情報の出力を可能性があるため、病名診断等の正確な情報が必要となる場合や面接の可否判断のような人の評価をさせる場合等には特に注意が必要となり、リスクを抑えるためには AI の専門家の判断が必要になることもある。

では、実際に生成 AI はどんな場面で利用できるのだろうか。ここでは、業務改善、マーケティング

支援、サービス提供の3つの場面での例を挙げる。

業務改善としては、メール文章の自動生成、企画書やプレゼン資料の作成サポート、文章の翻訳・要約等での利用が考えられる。マーケティング支援としては、キャッチコピーや広告テキストの自動作成に利用できる。サービス提供としては、チャットボットサービスの提供や、コンテンツ生成サービスの提供としての利用等が考えられる。今まで中小企業には開発が難しかったサービスも生成 AI により開発が現実的になった。

実際に、筆者が経営する株式会社 blankcanvas では、AI キャラクターの「雨戸アヤ」とブラウザ上でチャットができるサービスを生成 AI を用いて開発している。「雨戸アヤ」は個性のある性格や長期的な会話の記憶を持たせることに成功しており、利用ユーザーからも「機械ではなく人間と感じる」というような声があがっている。株式会社 blankcanvas では「雨戸アヤ」だけでなく、生成 AI の技術を用いた開発支援を多数行っている。

生成 AI は今後さらに進化し重要性を増していく。誰にでも生成 AI が簡単に利用できるようになった今こそ、より AI への知識を深め、効果的に活用する方法を探していくことが必要だろう。



## 第19回サロンのご案内

【講演テーマ】

### 自動車産業の電動モビリティとデジタル化が雇用に及ぼす影響 ～フォルクスワーゲンの取組み事例から読み解く～

【講演者】 明治大学名誉教授 博士(商学) 風間 信隆 氏

日時 / **2023年11月10日(金)**  
午後8:00～9:30(予定)

開催方式 / **Zoomオンライン開催**

▶ 略歴

1974年 武蔵大学経済学部経営学科卒業  
1979年 明治大学大学院商学研究科博士前期・後期課程単位修得  
1979年 明治大学商学部助手  
1990年 明治大学商学部教授  
2022年 明治大学名誉教授

▶ 講師からの一言アピール 世界の自動車産業は、大変革期に入っており、そのキーワードは電動モビリティ（電力で動く乗物）とデジタル化です。本講演では、世界でトヨタに次ぐ巨大自動車メーカーであるフォルクスワーゲンの取組み事例を解説しながら、これらのイノベーションが及ぼす中・長期的な雇用の影響についてお話します。具体的には、量的影響への対応と仕事の質的变化に対するリスクリング（学び直し）です。この問題について皆さんと議論を深めていきたいと思います。

▶ 参加申し込み方法

参加費は無料ですが、事前の参加申し込みが必要となります。下記の事務局メールからお申込みください。メール受付後にミーティングIDとパスワードをお知らせします。

産業部会事務局 [info@ifeama-jis.com](mailto:info@ifeama-jis.com)

## 第8回 年次総会・講演会 決議事項のご報告

望月会長から、昨年の活動報告（年次総会・講演会の開催、年三回のサロン開催、年四回の会報発行、第7期の決算報告）があった後に、以下の議案が承認されました。

- 本年度の活動計画について  
年次総会・講演会の開催、年三回のサロン開催、年四回の会報発行
- 役員人事について  
風間信隆（明治大学名誉教授）が副会長に就任

（文責：産業部会幹事 長田邦博）

## 第7期 決算報告

2023年7月1日

自 2022年7月1日  
至 2023年6月30日

（単位：円）

科目	金額
前期繰越	494,675
当期収入	264,334
当期支出	353,990
次期繰越	405,019

### 編集後記

第8回年次総会・講演会に、33名（オンライン参加を含めて）の方のご参加をいただきました。最近話題のChatGPTがテーマでしたので、質疑応答も活発で大変興味深い講演会になりました。その後の懇親会にも多くの方のご参加をいただき相互交流を深める良い機会となりました。無事盛会に終わることができたのは、会員の皆様を初めてとして、関係者皆様のご尽力のお蔭であり感謝を致します。引き続き皆様のお力添えをお願い申し上げます。

（文責：産業部会幹事 長田邦博）

■ 発行責任者

望月邦彦（産業部会 部会長）

■ 発行日 2023年10月

■ 各種お問い合わせ先

産業部会事務局 幹事：長田

■ E-mail [info@ifeama-jis.com](mailto:info@ifeama-jis.com)

■ Home Page

<https://www.ifeama-jis.com/>